平成１７年度第２回福岡空港調査連絡調整会議
議事録

１　日　時　平成１７年１２月１日（木）１６：００～１７：１５
２　場　所　ホテルレガロ福岡　３階　レガロホール
３　出席者
（１）連絡調整会議委員

国土交通省九州地方整備局長	宮田　年耕
（代理出席　九州地方整備局副局長	岩瀧　清治）
国土交通省大阪航空局長	茨木　康男
福岡県副知事	武居　丈二
福岡市副市長	中元　弘利

（２）幹事

国土交通省九州地方整備局港湾空港部長	戸田　和彦
国土交通省大阪航空局飛行場部長	松本　清次
福岡県企画振興部理事	西村　典明
福岡市総務企画局理事	田代　政範

（３）本省航空局からの参加

国土交通省航空局飛行場部計画課長	須野原　豊

４　議事
（１）開会
事務局：定刻になりましたので、ただいまから平成１７年度第 2 回福岡空港調査連絡調整会議を開催させていただきます。
　本日のご出席でございますけれども、福岡空港調査連絡調整会議のメンバー4 人の方と国土交通省航空局飛行場部計画課、須野原課長にご出席いただいております。
　ここで本日の配布資料の確認をさせていただきます。上のほうから順に、配布資料一覧、会議次第、配席図、出席者名簿。続きまして、資料 1 としまして 1 枚ものでございます。それから別添 1 ということで実施報告書、それから別添 2 ということで有識者委員会の評価等についての文書でございます。それから資料 2 ということで 2 枚と、参考資料ということで 1 枚、色刷りのものを付けております。資料は以上でございます。
　ここでマスコミの皆さまへお願いでございます。議事進行の関係で、テレビ・カメラ等の撮影につきましては冒頭の事務局説明までとさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
　それでは岩瀧副局長様に議事の進行をお願いいたします。よろしくお願いします。

（２）議事
岩瀧副局長：それでは議事進行を務めさせていただきます。よろしくお願いします。
　本日は、先日行われました福岡空港調査ＰＩ有識者委員会のＰＩ(ステップ 1)に対する評価を踏まえまして、ＰＩ(ステップ 1)を終了するかどうかの判断と、平成 18 年度調査の概要についてご議論いただくことになっております。

議事１　福岡空港の総合的な調査に係るＰＩ（ステップ１）について

岩瀧副局長：それでは次第に沿って進めたいと思います。議事(1)の「福岡空港の総合的な調査に係るＰＩ(ステップ 1)について」の資料 1 の説明をお願いします。

【資料１　福岡空港の総合的な調査に係るＰＩ（ステップ１）について】

幹事：それではお手元の資料 1 の中身についてご説明をいたします。資料 1 は、今、岩瀧副局長よりお話がありましたけれども、ＰＩの活動を実施してまいりまして、それを終了するかどうかについての資料でございます。

まず資料 1 をご覧いただきたいと思いますけれども、10 月 31 日に私どもの活動の中身として実施報告書をとりまとめております。それを 11 月 16 日にチェック監視機関であります福岡空港調査ＰＩ有識者委員会に提出いたしております。

福岡空港調査ＰＩ有識者委員会のご報告、検討結果については後ほどご説明いたしますけれども、最終的には「ＰＩの目標を達成した」という評価をいただいております。そのために福岡空港調査連絡調整会議ではＰＩ(ステップ 1)を終了するかどうかについてご議論いただいて、最終的な結論をいただきたいと思っております。

なお、福岡空港調査ＰＩ有識者委員会の助言もいただいておりまして、それについては次回以降のＰＩにおいて検討していきたいと思っております。

それでは別添１の実施報告書でございますけれども、これは実施報告書の本編でございます。これに参考資料編ということで分厚い実施の内容についてを併せて報告いたしました。本日それは省略しております。

11 月 18 日に福岡空港調査ＰＩ有識者委員会のご審議をいただいております。この実施報告書本編につきましては、既に福岡空港調査連絡調整会議の幹事会で了解を取り、福岡空港調査連絡調整会議で中身について確定したところでございます。その中身については、今回行った周知広報、それから情報提供意見収集、いただいた意見とそれについての考え方などを整理しまして、福岡空港調査連絡調整会議としては今回のステップ 1 の今後の検討の基本となります基礎的な情報について市民の皆さん、県民の皆さんにご認識をいただくという目標を達成できたのではないかという内容のものでございました。

これらの実施報告書に加えて、福岡空港調査ＰＩ有識者委員会の皆様に直接、ＰＩ活動を視察していただいて、その印象等も評価をいただいておりまして、先ほどご説明しましたが 11 月 18 日にご審議いただいて評価書もいただいているものでございます。この評価書が別添 2 としてお手元にお付けしたものでございます。

福岡空港調査ＰＩ有識者委員会の方々の評価書でございますのでごく簡単にご説明いたしますと、最終的な評価は別添 2 に書いているとおりでございます。

まず、「1 評価」をご覧いただきますと、今回のＰＩ活動については「適切である」、それから今回のＰＩの目標は「達成された」という評価を、最終的な結論をいただいております。この点につきましては、実施報告書をとりまとめました我々の判断と同様の判断をいただいたということができると思っております。

また、評価とは別に、今後こういうふうに進めていくべきだというご助言もいただいております。そこに「2 助言」ということで 6 項目ほど書いてございます。内容としまして

は、周知広報の継続的な努力でありますとか、県外の方や外国人への情報提供を検討すべきではないかということ。あるいは女性の方とか若年層の方への対応もきちんとした方がいい。あるいは、さらなる手法の工夫を進めていくべきというようなアドバイスをいただいております。

これらは、ステップ 2 以降のＰＩ活動について検討していきたいと思っております。今後、ステップ 2、3、4 とございますので、どのタイミングでどういうふうに対応していくかにつきましては、それぞれのＰＩの実施計画の作成に合わせまして検討していきたいと思っております。

簡単ですが、評価書としてはこういう内容のものをいただいております。これらの評価、チェックの結果、あるいは我々が実施報告でまとめました評価、いずれにしましても適正ということでございましたので、ＰＩ(ステップ 1)につきましては今回をもちまして終了いたしまして、今後はステップ 2 の準備作業に入っていくのが適当ではないかと事務局では考えております。その点についてご議論をいただき、結論をいただければと考えております。資料は以上でございます。

岩瀧副局長：マスコミの方にお願いしたいと思いますが、冒頭に話がありましたように、これ以降のカメラ撮影はご遠慮願いたいと思います。

それでは、ただいまの説明についてご意見ございますでしょうか。

（発言者なし）

岩瀧副局長：よろしいでしょうか。それでは福岡空港調査連絡調整会議としては資料 1 のとおり「ＰＩ(ステップ 1)を終了する」と判断したいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

岩瀧副局長：それでは福岡空港調査連絡調整会議としては、ＰＩ(ステップ 1)を終了することといたします。

議事２　平成１８年度の調査の概要（案）について

岩瀧副局長：続きまして次の議事ですが、資料 2 の説明をお願いします。

【資料２　福岡空港の総合的な調査　平成１８年度の調査の概要（案）】

幹事：資料 2 のご説明を申し上げます。調査の 18 年度の概要についてでございます。資料 2 の 2 枚紙セットの最後にカラー刷りでフローチャートを付けております。17 年度も何ヵ月か残しておりますので、その結果を踏まえて 18 年度に何をしようとしているかというものでございます。

1 番目に「将来の航空需要予測」の件であります。これは既にかなり検討を進めており

まして、基本的なフレーム等について現在、精査しているところでございます。今年度の成果を踏まえて、18 年度には後ほど出てまいります近隣空港との連携、現空港での滑走路増設、新空港の検討と、いろんな検討ケースに合わせまして将来需要予測の精査を行うということでございます。

航空需要は基本的に 1 つに定まるような感じはしますけれども、新しい空港とか現空港とか、どこに空港が存在するかによって需要予測値が若干変動します。その辺も踏まえての需要予測を 18 年度にも行ってまいりたいということでございます。

②の「近隣空港との連携方策の検討」、これは国と地域でそれぞれ検討を深めてまいるということでございますが、主に新北九州空港、佐賀空港等々の空港との連携方策のあり方をとりまとめてまいります。

3 番目に「現空港における滑走路増設の検討」ということで、現空港の敷地を拡張して滑走路の増設が可能かどうか、またその場合の周辺への影響はどうかということについて国と地域がそれぞれ分担をしつつ検討を行ってまいりたいというものでございます。

④の「新空港の検討」でございますが、これまでの航空需要予測とか福岡空港の将来像を踏まえながら新しい空港を造るとすればどういうところが可能なのかということについての検討を行うとともに、新しい空港ができますと現空港の土地といいますか、現空港用地の開発計画も検討する必要があるということで、この辺については地域の検討を待つということでありますし、新空港自体は国と地域の共同でやるということでございます。

大きな 2 番目、「とりまとめ」については、それぞれの検討内容を評価するためのどういう評価の視点があるのか、その視点に基づいてどう比較評価するのか、それを踏まえた将来の方向性の案を作成するということで、非常に調査のヤマ場と言いますか、結果にだんだん近くなってくるということで盛りだくさんの調査内容でございます。これらについて 18 年度に調査を行っていきたいというものでございます。

岩瀧副局長：ただいまの 18 年度の調査について、ご質問はございますでしょうか。

武居副知事：将来の航空需要の予測の関係ですけれども、17 年度までに手法を開発して、それに基づいてということになるわけなんですけれども、そこら辺の手法なりをどういう考えでどう整理したのかというのを、ベースになる部分をＰＩとかいろいろ関係してくるのでわかりやすく考え方を、現時点というよりも来年度につながる段階で整理していかなければならないと思いますので、そこのところは特によろしくお願いしたいと思います。

それから、どうしても予測なのでそのときになってみないとわからないと思うんですけれども、どちらかというと人によっては斜めから見がちな部分もあるので、そこのところが客観的にきちんとわかりやすく皆さんに伝わるような形で説明していかなくてはいけないと思いますし、空港ということに限らずなんですけれども、一般的によく行政関係は予測が過大ではないかと言われがちな部分も一般論の話としてございますので、そこのところをちゃんと説明責任が果たせるようにしていく必要もあろうかと思います。ここはぜひよろしくお願いしたいと思います。これは特に要望ですけれども。

岩瀧副局長：ほかにございませんでしょうか。

幹事：今の需要予測ですけれども、全国についてもこれから次のいろんな長期なんかも始めましてやろうとしていますので、うちも参加していますけれども全国とも調整が要ると思いますし、やる中であまり齟齬があっても困るので、そこのところはよく議論させてもらったらいいのかなと思っているところです。

須野原課長：幸いこの場合は、従来はかなり予測に対して上回っている例もあるし、特に最近に供用した空港なんかを見ますと、もちろん全部の空港がマルだったかどうか別としましても、かなり予測を上回った空港もあるし、そうでなかった空港もあったりして、まさに今言われたみたいにどうしてもばらつきが出たりしますので、そこのところは手法も含めて今言われたみたいな話、そういうところが大事だと思いますので、きちんと整合が取れたような形でと思っています。

岩瀧副局長：何かありますか。

幹事：既に国の専門委員会で何度か、専門の学識経験者等を含めた形での検討を行っておりますし、武居副知事から言われた説得力があるようなものにしなければ、いずれまたＰＩの段階で大変なことになりかねませんので、そのあたりを十分に踏まえて対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

岩瀧副局長：ほかにございませんか。

茨木局長：私のほうからは、18 年度の話もあるのですが今進められている 17 年度の分から需要予測というのをやっているわけでして、それについて要望といいますか、申し上げたいことがございます。

これも今、武居副知事が言われた説明責任と関係することですけれども、段階ごとにＰＩをやっていますが、段階が進んでいくと今回の調査の 3 本の柱であります既存ストックの有効活用というのと、近隣空港との連携というのと、それから抜本的な能力向上策、これも現空港での滑走路増設と新空港というのがあるわけですが、この 3 つについて「こういうやり方をしたらこうなります」という姿を提示してＰＩにかけるといいますか、広く意見を求めるということが、当然そういう段階が来るのだと思います。

そのときに現在の空港、既存ストックの有効活用というのをどういう形で提示するかということを考えたときに、16 年度までの話で能力の見極めということで 1 つ数字が出たり、そういう形になっておりますけれども、それはそれで 1 つの計算をするとそういうふうになるということかと思いますが、数字が 1 つあって、そこまでいったら現空港は目一杯で終わりですよというような形では、十分に情報提供しているということにならないという指摘が出てくるのではないかという懸念があります。

実際には、ある数字になればそこで全部がそれ以上どうにもならんということではなくて、例えば混雑して遅れが生じてくるとか、乗りたい便に乗れないとか、少しでも時間を外せば空いている時間があって、そっちで行けるとか、そういう状態が徐々に起こってきてどんどん状態が悪くなるというふうなことかと思うんですけれども、そういうあたりを

わかりやすく提示することが議論を深めるには必要ではないだろうか。

例えば、話はちょっと違いますが新空港とかの案ですと、おそらく福岡の今の状況から言えば、「今の空港より遠くなってアクセス時間や費用がこんなにかかるようになります」というのは出ると思うんです。そういうのを我慢してでもこっちのほうがいいかどうかという話になると、メリット・デメリットといいますか、その辺を総合的に考えての議論になると思うんです。現空港の場合も、そんなに使いたいように使えるわけじゃないけれども、時間をずらすとか少し遅れることも我慢してというふうなこと、「我慢するとこういう状態でこう使っていけるようになります」というあたりを示して、そういうことを全部知ってもらって市民の皆さんに議論してもらうことが大事じゃなかろうかという感じがちょっとあります。

それで前回、16 年度の分について処理能力の話が出たときも、1 日の中で便数の波があるわけですね。多い時間帯、少ない時間帯と。そういうことについて、もうちょっと空いている時間帯を利用するとどうなるかとか、そのあたりもさらに検討していったほうがいいんじゃないか、利用者サイドからの見方に立ってということをちょっと申し上げて、この需要予測の作業の中で、片方で需要が出てきて、「需要がこうなると、供給側がこうだとこういう現象が起こります」という関係にあるわけですから、需要の作業の中でそういうことも検討をしていこうという事務局からのお答えもあったと思いますので、その需要の話の中で先ほどから申し上げました現空港を、「限界と言われる数字になったとしても、それから先使っていたらどういう状態で使うようになるのか」というあたりも検討していただいて、最後にパッケージといいますか、ＰＩにかけるときにその辺の姿も市民の方に見えるようにして議論していただくというふうにぜひお願いしたいと思います。

幹事：お答えになっているかどうかちょっと自信がありませんけれども、今みたいに数字で、ある点を越えればまったく用を成さないみたいな、1 か 0 かみたいな議論ではないというのはよく認識しております。また一方で、地域として、これは私というより福岡県とか福岡市さんの議論かもしれませんけれども、今みたいな需要に十分対応していないことをどう考えるのかと、地域の将来像とかいろんな検討を地域のほうでも熱心にやられているということもございますので、数字だけで決まるようなものでも必ずしもないと思っておりますので、需要予測は国がメインでやりますけれども、地域の意見、またＰＩの意見というところを全体的に考慮して進まざるを得ないというか、進む必要があると思っておりますので、ただいまのご指摘についてどうやるかというのはなかなか言いづらいのですが、そういうご指摘を踏まえて、なるべく極端な議論に走らないようにしたいと思っております。

岩瀧副局長：ほかにありますでしょうか。

1 点、これは 17 年度、18 年度をずいぶんダブらせた形で調査を進めることになっていますけれども、17 年度はこのスケジュールで動けることになりますか。最後の色刷りの紙で見ると、17 年、18 年度にまたがった調査をやるような感じになっていますけれども、17 年度はかなりのところまでいけるんですか。

幹事：手間のかかり具合というのはそれぞれ大小があると思いますけれども、航空需要予測は結構手間がかかったりして、もうちょっと早めにできるんじゃないかと思いながらもなかなか時間を要してしまっているというのは事実でありますが、近隣空港との連携方策等についてはかなり地域のほうでも作業が進んで一定程度の結論が出されるように思っております。現空港の滑走路増設も、これはそんなに選択の余地の幅がないので、あと 1 本滑走路が入れられるか入れられないか、入れた場合にどういう影響が出るかというのは、17 年度にはあまり細かいところまでやっておりませんけれども、18 年度で十分やれると思います。

最後の新空港は、これは自由度がたくさんあってなかなか手間なものだと思いますので、そう簡単にできる代物ではございませんけれども、いずれにしても 18 年度中に一定の方向性を出したいという目標に向かって、それぞれ調査を進めていきたいと。そのために 17 年度、本年度中になるべくやれるものはやり終えたいと思っております。

岩瀧副局長:これはかなり地域と国でバラバラでやっておけばいいというものではなくて、お互いにキャッチボールしながら進めないといかんという部分もあるかと思いますけれども、そこら辺で片方が足を引っ張ることのないようによろしくお願いしたいんですが。

幹事：地域の調査の委員会にも国のほうから出席をいただいていますし、段取りとしては地域のほうでやった分を最終的なアウトプットではなくて、ある程度まとまった段階で国のほうと交互にやっていますので、その辺は齟齬のないように今後やっていきたいと思います。

須野原課長：近隣空港との連携ということで、実際にいくつか話題に上がっている新北九州とか佐賀で、特に新北九州の場合は供用するのが来年の 3 月ですから、その辺の結果といいますか、影響みたいなものが若干時間はかかるのじゃないかなと思いますので、そこら辺はここに確かに書いてあるけれども、その辺のところを見ながらというところも必要かなと思いますけれども。

岩瀧副局長：ほかにいかがでしょうか。

中元副市長：地元から言わせていただきますと、18 年度の調査というのは地元にとっても非常に大きな影響がある調査かと思いますので、いろんな手法で考えられると思いますけれども、その方策がこういう理由でこういうふうなものを取ったという形をできたらやってほしいということと、PI に際しましてもその辺を盛り込んだ形で出していただきたいというのが私どもの意見です。よろしくお願いしたいと思います。

岩瀧副局長：ほかにございませんでしょうか。

茨木局長：もう 1 つ、新空港の話で、今の資料 2 の「④新空港の検討」というのがありますけれども、この中に「現空港用地の開発計画の検討」というのがあるんですが、これは

地域でやっていただくことになっております。これについて申し上げたいんですが、現空港用地をどう開発していくかという話は、新空港案といいますか、いろんな方策がある中の新空港でいくという方策の１つの、ちょっと変な言葉かもしれませんが、売り物の１つではないかと思うんです。そういう意味では、ＰＩにかけるときにここがどのくらいのものが提示できるかというのは、市民の皆さんの受け止めようをだいぶ左右するんじゃないかなと思うわけなんですが。

片方で、よくあるのが、今までの空港のパターンで、福岡空港みたいな空港は今までにはそんなに無かったと思いますけれども、移転するという空港のケースで、あとの利用というのは、あくまでそれはあとの利用というふうな、跡地利用とか跡利用とかそういう捉え方で、空港の話が先に決まって、じゃあそこに空き地ができるからそれをどうしたらいいんだろうかという捉え方で検討されていることがほとんどだと思うんです。

けれども今回のケースの場合はそうじゃなくて、空港のプロジェクトと現空港用地の開発プロジェクトというのが同時進行と言いますか、空港が動いて空き地ができるからどうするということではなくて、空港のほうには空港の要素がある、都市側には都市側の要素があって、2 つのプロジェクトが並行して検討が動いて、それがマッチして現実のものになっていくというふうなことを考えていかないと、最後にパッケージで出してＰＩをしたときに、果たしてあとがどうなるか。基本的な考え方とか何とか、そういうのはいろいろこういう中で出てきて示すのかもしれないですけれども、もうちょっと具体的なものがないと非常に議論がしにくいというか、もし新空港をやっていこうというふうな、空港側から見た場合にそっちのほうがやっぱりいいねという話になったとしても、そこのところが弱点になりかねないのではないかという心配がちょっとあるんですね。

それともう１点、実際に国がそういうことを意思決定するとしても、ある程度はっきりしていないと意思決定もなかなかできないのではないかと。中部空港が今年開港しましたが、あれも国が意思決定したときには、元の名古屋空港をジェネラルアビエーション用の空港として県がやりますという話が出てきて、それで意思決定されたんですね。

そういった行政的な意味でも、それからＰＩなんかをやっていくときに、できるだけ新空港の応援をしてくれる人が増えるようにと考えた場合でも、別に私自身が新空港がいいと思っているわけじゃないですが、いろんなケースがあると思うんですが、仮にそっちのほうを考えたときに足を引っ張るようにならないかなという意味合いと、その 2 つの点でここの部分を跡地、空港の話のあとを追いかけるという発想ではなくて、極端な言い方をしたら、都市でどうしてもこういうプロジェクトをやる必要があるので空港は出て行ってくれというくらいの元気を持って都市側の要素が出てくるような、それはちょっと極端な話ですけれども、それくらいに少なくとも一緒に走っているという形で取り組んでいただくくらいのことが必要ではないかと思うんです。

そういう意味で、これは今いろいろある項目の中の１つに入っているんですが、これは福岡空港の総合的な調査の中ではこれでいいかもしれないですけど、これの枠外でもっと都市自身としてどう取り組んでいくのかということを、この枠外でも結構ですから、ぜひしっかり取り組んでいただきたいなという感じがいたします。将来行き詰まらないために。

それでもっと卑近な話で言いますと、私ども毎日福岡空港を管理運用していますけれども、ご承知のとおり民有地が 3 分の 1 あって、そこの地主さんと良好な関係を持ちながら

やっていく必要があるわけでして、そういう今の空港を、仮に新空港がいくとしても、新空港が開港する前の日まで円滑に運用しないといけませんので、そういう観点も私どもとしてはあるのですが、それはさて置いたとしても、先ほど申し上げたような点からぜひその点をよろしくお願いしたいと思います。

幹事：ご意見をいただきましたけれども、地元の立場としては、県・市で十分その辺についても配慮する点であろうかと思っております。実際の問題として航空需要の予測がしっかりと出ていない中で､現実の問題として今の空港の跡地をどう考えていくかについては、実際にはそこまで思いが至っていないというのが正直なところでございます。

ただ、言われたように跡地の利用の仕方ということについては、非常に与える影響が多いし、また調査項目の中でそれを取り上げている意味が非常にあろうと思っております。歴史的な経緯もございますので、歩調を合わせながらの調査ということで理解させていただきたいと思っております。

岩瀧副局長：ほかにございますでしょうか。

（発言者なし）

岩瀧副局長:よろしければ､この方向で調査を進めていくということにしたいと思います。

議事（３）その他

岩瀧副局長：それでは次の議事に進みますが、その他の議事について何かございますでしょうか。

幹事：今後のスケジュール、ステップ 2 に向かってのスケジュールも含めてでございますけれども、1 つには今回終了するということで結論を出していただきましたので、今回ステップ 1 のいろんな実施についての記録がございまして、それにつきましては速やかに整理をいたしまして、県や市の情報窓口で閲覧したいと思っております。当初からそういう予定で進めておりましたので、閲覧がいつでもできる状態にしておきたいということでございます。

閲覧できる資料につきましては、1 つには先ほどご説明しましたけれどもＰＩの実施計画書、それについての福岡空港調査ＰＩ有識者委員会の評価書。2 番目に実施報告書の本編と参考資料、それから 3 番目に実施報告書についての福岡空港調査ＰＩ有識者委員会の評価書でございます。以上の 3 点について閲覧に供したいと思っております。

それから 2 点目でございますけれども、作業的にはステップ 2 の実施計画の作成作業を今後進めていきたいと思っております。まず、案を作りまして、当然ながら年明け以降になりますけれども本会議で協議し、決定していただいた後、福岡空港調査ＰＩ有識者委員会に送付して評価・助言をいただいて、2006 年の早い段階を目途に、どういうふうに実施をしていくかという実施計画、ステップ 2 についての実施計画を作成していきたいと思い

ますので、その際にはご審議のほどよろしくお願いしたいと思います。

岩瀧副局長：ただいまの説明につきまして、何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。

（発言者なし）

岩瀧副局長：それでは、その他何かございますでしょうか。

武居副知事：今回の議題と関係ないのですけれども、福岡空港調査委員会が昨日あったんですが、調査のベースとして現空港をどの辺まで使えるかというのが出たときに、航空会社からまだまだ余力があるような、基本的な認識のベースが誤ったようなことを前提にした話があったのですけれども。我々もここでも議論したんですけれども、「今のこういったやり方でいくと、ぎりぎりやってもこんな感じだ」というのをいろいろ議論した上でしたと思ったので、基本的に誤解が生じるような話のところは今後のことにも関係する、さっきの話にも関係するんですけれども、基本認識としてはきちんと理解してもらう必要がありますし、航空会社というのはそういうのがある意味では県民よりも近いところなので、そこのところは当然わかって然るべきだったのになと私もあとから思ったので、こんな基本的なことなのに何でそんな認識の違いを持っているのかなと思ったので、それだけ少し意見として申し上げておきたいなと思ったんですが。

幹事：発着処理能力のことについては、なかなか素人にわかり易い説明の方法が難しくて、ある意味、ご批判を受ける余地も残ったのかと反省しております。次回に向けて説明の仕方も工夫したいと思います。

それから実は、今日ご報告しましたＰＩ(ステップ 1)に関する福岡空港調査ＰＩ有識者委員会のご助言の中でも、専門家の意見も添えながら市民に説明すると有効だというお話もございましたので、そういった形での理解を深める表現の仕方といったことも今後工夫してまいりたいと思います。

3 閉会

岩瀧副局長：それではこれで終わりたいと思いますので、事務局、よろしくお願いいたします。

事務局：以上をもちまして、本日の福岡空港調査連絡調整会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。